

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 11 月 24 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3471504179		
法人名	有限会社シンライフ		
事業所名	グループホームスマイル		
所在地	広島県福山市千田町二丁目33番23号		
	電話番号	084-961-0206	
自己評価作成日	2015年9月10日	評価結果市町村受理日	平成 27 年 11 月 16 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 27 年 10 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>四季折々の季節を感じて頂けるように食事や行事、飾りに気を配っている。 「今できる事」を大切に、個別外出にも取り組んでいる。 本人、家族の希望があれば終末期が来てもスマイルで過ごして頂けるように提携医師との連携を密にし、支援させていただいている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅地に位置し、事業所内にあるミニ菜園では季節の野菜を作り利用者にも水やりを手伝ってもらい、やりがいを感じる支援に繋げている。職員は日々理念に沿って利用者を年長者として敬い本人から食べたい物の希望が出されれば個別外出で対応したり、呼び方の希望があれば本人が納得するよう一人ひとりに合わせた対応を行っている。利用者個人個人の尊厳を守りながらのケアを基本姿勢とし、終末期ケアに於いても24時間協力が得られる医療機関と家族・職員で方針を共有しながら本人が最期まで普通の生活を維持できるような取り組みを行っている。又大切な命を守る災害対策についても地域の消防団や警察との連携も取れ近隣者の協力も得られる関係となっている。水害時での自衛手段の方法も考えられていて防災への意識が高い。同法人と協力しながら各種ボランティアの受け入れや、中学生の受け入れ、高校の文化祭への参加など利用者が笑顔で暮らせるように幅広いジャンルの支援提供を行っている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念を唱和し、ただ唱えるだけでなく意味を深く理解し、自然と日々のケアに生かせるようにミーティングの場でも話し合っている。	「報恩・環境整備・礼儀」を理念に掲げ、毎朝の唱和と共に法人代表からの理念に関する話を通して職員に周知させている。管理者・職員は日頃言葉使いや礼儀に気を配る等理念を念頭に置いた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回の溝掃除、資源回収や公園掃除に参加し事業所を知って頂くよう積極的に挨拶や会話をするようにしている	町内会に加入し、回覧で地域の情報を得て溝掃除や公園清掃に参加している。中学生のチャレンジウイークの受け入れや高校の文化祭にも出掛けている。又各種のボランティアの訪問があり、幅広い範囲の地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアグループの方たちに来ていただき入居者の方たちとふれあい又グループホームの中での生活を知って頂くようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し民生委員、市職員、地域包括支援センター、居宅事業所、調剤薬局の参加があり、その時の貴重な意見を全職員に知らせサービスの向上につながるようにしている	議題の年間計画を立て各分野からの参加により2か月毎開催している。状況報告・意見交換が行われると共に勉強会を兼ねる事もあり大切な情報収集の場となっている。以前はあった家族の参加が現在は難しくなっている。	事業所の状況を家族の方にも共有して頂けるよう家族の訪問時や、報告書の送付時に運営推進会議への参加依頼をお願いされる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や包括支援センターの研修に参加したり、市の担当者が事業所に来て下さったりと協力して頂いている	運営推進会議への参加や生活保護関係・法改正についてその都度不明な事を相談に出向いたり、来訪して貰うなど協力関係が築かれている。包括支援センターの研修会でも親交を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を深く理解する意味でも、年に1回外部研修を受けGHで勉強会をし全員が深く理解し拘束はマイナスを及ぼすことを周知徹底している	職員は身体拘束の弊害に関しては外部研修やGHでの勉強会を通して理解している。車椅子の拘束もなく、ベッドからの転倒防止にもマットを敷いて対応している。徘徊の方も声掛け見守りを重視し利用者を束縛しない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回外部研修を受けGHでの勉強会をし内容や意味を理解し何気ない一言も虐待につながることを認識し職員で注意しあい取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用しておられる入居者様もありミーティング場等に話し合い情報交換している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前十分に説明し理解されたうえで契約している。解約の説明も入居前に行い理解を得ているがいつでも相談に乗れることも伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は日頃より伺うようにしている。話しやすい雰囲気づくりに努めており雑談の中にも要望らしきこともあり聞き逃さずケアに生かせるよう努めている	家族の意見・要望は訪問時か遠方の場合には電話か手紙で出される。利用者の意見は日頃の職員との何気ない雑談から読み取り、出された意見は日頃の業務に繋げるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個別面談を行い意見交換し、又必要に応じて臨時面談を行い働きやすい環境づくりに努めている	職員の意見は月毎の勉強会やユニットミーティングで出せ、日頃から言える環境にある。意見要望はその場で回答する事もあり、業務に反映させている。又年2～4回行われる社長・事務長による個人面談も意見を出す機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、年に最低2回の個別面談を行い職員個々の前向きな目標と課題を見つけることで自分の置かれている環境を再認識している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員から毎年の年度初めに1年間の目標を挙げてもらいそれに基づいた外部の研修が合った場合、参加するように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括のネットワークに参加し、地域と同業者との交流を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談で本人、家族の要望をしっかりと聞き取りこちらからも少しずつ質問しながら信頼関係が築けるよう努め、又1度できた信頼関係を壊さないように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時から不安なこと要望等を遠慮なく言っていたりするような雰囲気づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要サービス度の高い順でプランに組み入れるようにしている。GHなので他のサービス利用はボランティアの方々の力をかりて支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別対応時の声掛けや共同生活の中で共感できるようなレクリエーション外出支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GH通信や定期状況報告を送付し現状を伝え、又急変時や用事のある時は適度連絡を取り合っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族から馴染みの人や場所を伺って個別外出に繋げている	個別に思い出の場所へドライブに出掛けたり、家族の協力で自宅に帰られる方もある。頻繁に来られる親戚や知人の訪問は快く受け入れ、今までの人間関係が継続できるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同志を近くの席に座ってもらい会話がはずむような雰囲気づくりをし、コミュニケーション能力が向上するよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に看取り後の家族様に対してはサービス中と変わらない対応をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活が違うため各自一人ひとりケアプランをたて本人にとってより良い生活ができるよう支援している	思いを言える人も多く、声掛けで会話の中から聴きとったり、選択肢からの反応や表情から本人の思いを理解している。広告や料理本から食への希望を引き出すこともあり、本人の思いに添ったケアに繋がるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各自アセスメントを理解、復習し利用者本人の意向にそったサービスをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調の変化、バイタルチェックなどで状態を把握し改善にむかうよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや体調を考慮し施設での生活が良いものであるように提案、提供し過ごしている	基本情報のアセスメントから担当医の意見を踏まえカンファレンスの後暫定プランを作成し、2~3週間試行する。その後家族・職員の意見を取り入れカンファレンスの後本プランを作成する。見直しは必要であればモニタリング後か随時行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務、介護日誌に分単位で記録し特変事項はミーティングにて検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人第一に考えたサービスを行い、状態に応じて変更対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、地域の学校行事等に関わって生活している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回かかりつけ医が往診し緊急時にも24時間対応していただいている。他病院への紹介や予防もしていただいている	利用者全員が協力医となっていて、2週毎の往診と場合によっては受診の支援も行っている。他科受診等は家族対応となっているが診察結果は関係者で常に共有し適切な医療支援が受けられるよう対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で気づいたことや情報は介護記録や連絡帳で全職員が共有し、看護師には医療連携帳でも伝わるようにし必要に応じて医師の指示を受け適切な支援が行われるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーを記入し情報を伝え退院時には医師の指示や病棟より状態をもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思確認はできないことがないが、家族、主治医、職員が十分に話し合いを行い方針に沿ったケアを行っている	医療機関とは24時間連携がとれ、家族の要望に沿って医師の指示の下、看護師・職員と共にその都度家族と話し合い統一した看取りを行っている。職員も看取り期の観察ケアポイントの勉強会を通して適切な対応を見に付けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状態を把握しすべてにおいて対応できるようスタッフ間の連携がとれている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的に行い連絡を親密にして急な時の対応に対処している	消防署指導で夜間想定訓練や避難誘導訓練を実施している。又災害時での地域消防団・警察との連携もでき、近所の応援も取り付けている。水害時での具体的な待機方法なども決められ防災意識が高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念にある報恩を厳守し利用者の方々と接している	生活歴を踏まえ一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けを行っている。年長者を敬う基本姿勢で、その時々場面に合わせてプライドを傷つけぬよう心掛けた対応を行っている。個人情報保護も厳守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞き出したり考え好みを理解し日々対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、休憩、レク等各自のペース時間に相違があり、一人ひとりの支援とQOLの向上に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、持ち物等、清潔に保てるよう支援し身だしなみはできる限り援助し本人らしさを保っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや味付け等を聞き出し各自の食事のあり方を理解しながら対応している	食事は職員の手作りで利用者の状態に合わせた形態の物を提供し個々のペースで食している。日曜日には利用者にはホットケーキ・メロンパン・あんみつなど職員と一緒に手作りする時間を楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の質・量とも記録し体調を相談しながら不足をなくすよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと必要に応じてケアを行い清潔に保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い各自のパターンを把握し見守り介助を行う。座位が保てる方は日中トイレで排泄できるよう支援し立位難しい方は2人介助で行っている	利用者の状態に合わせた排泄の自立支援を行い紙パンツから布パンツに移行した例もある。オムツの方も日中は紙パンツにしてトイレでの排泄に繋げている。立位困難な方は2人体制でトイレでの排泄を促し介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維質の食べ物を工夫し下剤を最終手段として管理している。困難者は毎日チェックし対応する。体操やボール遊びで体を動かすよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員の希望に沿って入浴することは難しいが心地よく入浴して頂けるよう配慮している。入浴拒否がある場合は意志を尊重して日を変えたりして対応している	週2回午後からの入浴となっているが臨機応変に対応している。浴室内にトイレが設置され利用者への負担軽減にもなり気持ちよく利用できている。拒否の方は職員を変えたり声掛けを工夫し入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ離床し外気浴、ラジオ体操、軽体操等をし心地よい疲労が促す中で眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時の注意事項に留意し管理している。きちんと服薬できているか薬箱と内服チェック表にて再度確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手仕事の好きな方、歌を聴くのが好きな方、テレビを見るのが好きな方、各々の楽しみや役割を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者から要望があった時にはなるべく家族の方に協力を得て希望がかなうよう支援している。又ほかの事業所と連絡を取り色々な行事に参加して頂き外出の機会を作るように支援している	同法人の事業所に出掛け演奏会や3B体操に参加している。家族が参加される方もあり、ばら公園やアジサイ、お雛様見物にも出掛けている。又個別外出として好きなものを食べにも出掛けることもある。日常は事業所の菜園の水やりや外気浴も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週1回移動パン屋さんが来ており好きなパンを選んでもらいお金は職員が払うが値段をみて判断していただいている。でも今はそれができるのも数人である		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話したいとの希望がある方に対してはいつでも話をさせていただくように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画や花を飾って季節の話をする事で感じ取れるよう配慮している。部屋の作りが外の風景をみる事ができないため外気浴を良くしている	玄関には生け花が入れられ、ユニークな衣装をまとった利用者の顔写真が飾られていて来訪者を和ませしてくれる。広い畳コーナーは日当たりも良く自由に寛げる場所となっている。利用者が落ち着いて穏やかな時間を送れる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい方はいつでも好きな時に居室に帰っていただいている。気の合った方は席を隣同士にしたり反対の場合は離れるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンス、衣類、家族の写真を持って来られ安心して過ごして頂けるよう工夫している	居室のベッドは備え付けの物で、布団や使い慣れた家具や小物入れは持ち込みとなっている。家族写真やお気に入りの飾りものが置かれ、手摺りの設置もあり安心して過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりをつけ安全を図る支援をしている。大きな日めくりを作り日を確認してもらっている		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらい				②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが			○	②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

事業所名:グループホームスマイル

作成日:平成27年11月16日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議への参加を家族に依頼する。	2ヶ月に1回の運営推進会議に1人でも2人でも家族に参加をして頂けるようにする。	・H27年11月の会議参加依頼は出来なかったが、次回H28年1月は早めに依頼する。 ・定期状況報告書の時に依頼書を送る。 ・年度初めに1年の予定表を送る。 ・面会時収支を説明し参加依頼をする。 ・気楽に参加して頂けるよう雰囲気作りに記を配る	
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。